

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
18	萩野 基行（8）	<p>1. 带状疱疹ワクチンの接種について</p> <p>带状疱疹とは、激しく刺すような痛みと、赤い斑点と小さな水疱が带状に現れるのが特徴で、症状には個人差があるようですが、強い痛みを感じる事が多く、中には夜眠れないほどの痛みを苦しむ方もいるそうです。この病気は、子供の頃にかかった水ぼうそうが、治った後もウイルスが脊髄から出ている神経節に潜伏しており、通常は体の免疫力によってウイルスの活動が抑えられているため発症することはありませんが、加齢、疲労、ストレスなどから免疫力が低下するとウイルスが再び活動・増殖し始め、带状疱疹となります。発症しやすい年齢は50代から70代までが特に多く、日本では、成人の約9割がこのウイルスを保有し、80歳までに3分の1の人が带状疱疹にかかると言われております。</p> <p>そこで、带状疱疹発症を予防するためにはワクチン接種が重要となります。この予防接種は発症を完全に防ぐものではありませんが、発症しても軽症で済んだり、後遺症の予防にもつながるとされています。</p> <p>コロナ禍の影響でのストレスから带状疱疹の発症も多いと聞き、以下質問します。</p> <p>(1) 本市では带状疱疹ワクチンの接種についてどのように周知しているか。</p> <p>(2) 本市ではこのワクチンの効果についてどのように捉えているか。</p> <p>(3) 本市においても、ワクチン接種費用が高額なことから、受けたくても受けられず、発症して苦しんでいる方が多数いる。そこで、接種助成をすべきと考えるがいかがか。</p>	市長 及び 担当部長